

《 カリキュラム・マネジメント評価表 》

学校番号	高等学校名	課程	指定事業等(国・県ほか)
中等3	茨城県立古河中等教育学校	全日制	チャレンジ・プロジェクト(重点校)

重点度	項目	現状分析と課題【R3】	目 標【GOAL】	取 組【PLAN】⇒実施状況【D0】	検 証【CHECK】	対 応【ACTION】
					成 果	次年度【R4】への課題と取組の方向性
1	学習指導 (教育課程)	【現状】 ・6年間の学習指導計画概要をもとに、年間計画及びシラバスを作成し、生徒の自主的・主体的な学習態度の育成を目指し取り組んでいる。 【課題】 ・生徒の自主的・主体的な学習態度の育成と個に応じた学習支援 ・6年間の体系的な学習シラバスをもとに、より効果的な教育活動の実践	・高い学力の育成(ベネッセ 1月総合学力テスト3教科(英数国)) 4年次:学習到達ゾーン:A3以上の生徒50%以上、S3以上の生徒20%以上 5年次:学習到達ゾーン:A3以上の生徒50%以上、S3以上の生徒20%以上 ・英語力の強化(GTEC Advancedタイプ) 4年次:スコア 270点(英検準2級)以上の生徒100%、960点(準1級)以上の生徒25%以上 5年次:スコア 690点(英検2級)以上の生徒100%、960点(準1級)以上の生徒50%以上	・授業形態の工夫(習熟度別、少人数、ティーム・ティーチング等)⇒○ ・授業実践の工夫(アクティブ・ラーニング、ICT活用等)⇒△ ・SUTや土曜講座を利用しての個に応じた指導⇒△ ・4年次:プレゼンコンテスト、スピーチコンテストの取組⇒○ ・5年次:スピーチコンテスト、プレゼンコンテスト、英語ディベートの取組⇒○ ・GTEC Advancedタイプ 12月受験の取組⇒○	・高い学力の育成(ベネッセ 1月総合学力テスト3教科(英数国)) 4年次:学習到達ゾーン:A3以上の生徒40.0%、S3以上の生徒11.3% 5年次:学習到達ゾーン:A3以上の生徒50.4%、S3以上の生徒18.6% ・GTEC Advancedタイプ 4年次:スコア 270点(英検準2級)以上の生徒100%、960点(準1級)以上の生徒20.5% 5年次:スコア 690点(英検2級)以上の生徒98.2%、960点(準1級)以上の生徒50.5%	【課題】 ・生徒の自性的・主体的な学習や探究的な学びをさらに促進させるための授業の工夫やどのようにICTを効果的に活用するかを今後も継続して検討していく必要がある。 ・4年次生全体の学力向上に向けた取組を学校全体で検討する必要がある。 【取組の方向性】 ・ICTを活用した授業力の向上 ・個に応じた学習支援の充実
2	進路指導 キャリア教育	【現状】 ・キャリア・プランニング能力の育成及び課題発見・課題解決能力の伸長において、各種進路講演会や適性検査等で全体への指導を行っている。 ・系統的キャリア教育の実施と支援体制の確立において、目標設定の明確化及びその実現へと繋げる指導の系統立てを充実させる必要がある。 【課題】 ・個別への声かけや面談の充実を図り、綿密な指導を行う。 ・外部模試や適性検査等の結果分析をもとに指導することにより、自らの力を客観視させたうえで目標を設定させ、それぞれの適性と到達目標に向けた進路実現へと繋げる。	・個別への声かけや面談の充実 ・年間面談実施回数:保護者面談2回、二者面談2回以上随時、声かけ随時 ・外部模試や適性検査等の分析指導・目標設定 ・生徒による年間模試分析実施回数:2回以上	・保護者面談実施の取組⇒○ ・二者面談の取組組み⇒△ ・声かけ⇒△ ・生徒による外部模試・適性検査等の分析指導⇒△ ・目標設定⇒△	・キャリア・プランニング能力の育成及び課題発見・課題解決能力の伸長における適性検査や講演会等の実施について、全体への指導は的確に行うことができたが、個別に対しての働きかけ、特に二者面談を年間2回以上実施するという目標を全ての生徒に対して達成することができなかった。 ・系統的キャリア教育の実施と支援体制の確立において、生徒による外部模試分析の機会が少なく、2回以上の時間は取れなかった。コロナ禍といこともあり、学校行事の変更も多く、時間を取れないこともあった。	【課題】 ・講演会等の実施による全体への指導とともに、面談や声かけを密にすることにより生徒の状況を把握し、それぞれの進路実現への充実した支援を行う。 ・模試実施後、可能な限り生徒による分析の機会を設け、メタ認知及び目標設定の指標とする。そのうえで適切な目標を設定させ、各自の進路実現へ向けての支援を行う。 【取組の方向性】 ・回数だけにこだわらず、生徒個人の状況を把握し、指導の内容を充実させる。 ・分析の適切な実施により生徒・保護者・教員が納得できる目標を設定させ、充実した支援を行う。
3	生徒指導	【現状】 ・基本的な生活習慣の育成や望ましい人間関係の確立を目指し、個に寄り添った生徒指導を実践している。 ・教職員間の共通認識のもと規範意識を醸成している。 【課題】 ・教育相談体制の確立 ・規範意識の向上	・「理由なし遅刻生徒」0% ・「不登校の昨年度比」10%減 ・「校則の定期的な見直しを实行」100% ・「問題行動」0件	・理由無し遅刻者をなくするため、「朝の登校指導」と「朝の読書の時間」の継続⇒○ ・不登校生徒を減らすため、アンケートや教育相談の積極的な実施⇒△ ・生徒会役員を中心とした「校則の見直しについて」の会議やアンケートの実施⇒△ ・問題行動をなくするため、問題行動に対する啓発や外部の人材等を活用した教室の実施⇒△	・「理由無し遅刻者」1日あたり前期生1%未満、後期生1% ・「不登校生徒」前期生4%、後期生1%、昨年度比増減無し ・「校則の見直し」についてのアンケート作成1回、会議3回の実施 ・「問題行動」前期生1件、後期生3件	【課題】 ・相談体制を整備し、不登校に対する未然防止を図る。 ・不登校生徒の社会的自立のために支援体制を整備する。 ・生徒による積極的な「校則飲み直し」と自主的な規範遵守 ・SNS活用におけるルールやマナーの継続的な学校全体の指導 【取組の方向性】 ・スクールカウンセラーや養護教諭等年次外教員の意見を踏まえた継続的なケース会議の実施 ・専門家や外部の施設等との協力 ・生徒会や生活委員会を中心とした「校則の見直し」の継続 ・生徒指導部を中心としたSNSの正しい使用に対する教育の計画と実践
	特別活動 (部活動は含まない)	【現状】 ・生徒会、実行委員会、ホームルーム委員長を各種行事の企画・運営の中心とし、生徒の自主的・自発的な活動を促し、実践している。 ・感染症対策を考慮し、地域や各機関と連携して自然体験活動や社会奉仕体験活動等の計画を行っている。 【課題】 ・地域の新型コロナウイルス感染症流行状況に対しての各行事における対応	・感染状況に対応した各行事の実行 行事実施率 100%	・各行事の実行への取組⇒△	・文化祭や対面式は、体育館を使用せず運動場で実施した。 ・生徒総会や立会演説会は、Google Meetを用いてオンラインで実施した。 ・体育祭は、地域の感染症流行状況が悪化したため全体での実施は中止とした。 ・文化祭は、2日間開催予定を校内発表の1日のみの開催とし、規模を縮小して実施した。 ・6年次生にエールを送る会は、全生徒対象ではなく後期生だけで実施した。	【課題】 ・新型コロナウイルス感染症流行が時期によって変化するため臨機応変に対応する必要がある。 ・コロナ禍で学校全体で行うことが難しい行事に関しては、今後どのように実施すべきかを昨年と今年度の実施方法から模索していく。 【取組の方向性】 ・各行事の実施方法をできるだけコロナ禍前のやり方に戻す。
	地域との 連携 (保護者、地域住民等)	【現状】 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、保護者、地域との関わりが減少している。 【課題】 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、授業参観等における保護者が来校や地域の人的・物質的資源活用の減少 ・本校の教育活動を地域に発信 ・保護者に寄り添った対応	・新型コロナウィルス感染症に伴う保護者、地域との連携 ・教育活動の地域への発信	・ICT(リモート、アンケート機能)を活用した保護者説明会(進路、修学旅行等)の取組⇒○ ・各教科における地域の人的・物質的資源活用⇒○ ・地域の専門機関(警察、教育支援センター等)との連携⇒○ ・課題研究発表会の実施⇒○ ・学校評議委員会の開催⇒×	・ICT(リモート、アンケート機能)を活用した保護者説明会(進路、修学旅行等)の実施 ・家庭科等において、地域の人的・物質的資源を活用…秋庭農園、吉田茶園、古河法務事務所 ・地域の専門機関(古河警察署等)との連携し、生徒指導関係行事(交通安全、携帯、薬物乱用等)の実施 ・教育支援センターと連携した不登校生徒、保護者への対応(3名在籍、3名支援・助言) ・学校評議委員、市内小学校校長を招いた課題研究発表会の実施 ・資料における学校評議委員への報告(学校評議委員会開催中止)	【課題】 ・家庭・地域社会と学校が一体となった取組の積極的な推進 【取組の方向性】 ・授業公開(課題研究発表等)の推進及びHP等による学校教育活動の情報発信 ・保護者に寄り添った対応 ・新型コロナウイルス感染症に伴う保護者、地域との連携(ICTを活用する等)
	教育環境 整備	【現状】 ・習熟度別授業や少人数授業等の実践に伴う施設の確保や整備に取り組んでいる。 ・蔵書構成を考慮し、広範な分野からの図書資料収集に努め、図書館資料の拡充を図っている。 【課題】 ・習熟度別授業や少人数授業等で使用する教室の確保 ・図書館の「読書センター」や「学習・情報センター」としての機能の充実	・学習形態に合わせた教室数の確保 100% ・バランスのとれた図書資料の拡充 ・小論文指導や生徒の探究活動のための図書資料の整備	・習熟度別授業や少人数授業等で使用する教室数の把握⇒○ ・学習形態に合わせた施設や教室の確保と整備⇒○ ・リクエストカードを利用した生徒・教職員の購入希望図書の把握⇒○ ・図書資料の収集⇒△	・学習形態に合わせた教室数の確保を100%達成 ・社会科学分野及び自然科学分野の蔵書割合を高めたことで、図書資料のバランスを維持することができた。 ・探究活動のための図書資料については、分野が多岐に渡るためすべての収集は困難である。	【課題】 ・学習形態に合わせた教室数の確保については 100%を達成したが、施設に限りがあるため調整が必要である。 ・探究活動のための図書資料の選定をバランスよく行う必要がある。 【取組の方向性】 ・校務部や各教科と連携を図り、場所と時間帯を調整しながら教室を確保していく。 ・リクエストカードや各教科との連携を図りながら図書資料の収集に努める。
	組織運営 (働き方改革)	【現状】 ・2020年度ストレスチェックを分析すると、当該部署の仕事のコントロール度が全国平均より少し高いことを示し、改善を薦める分析結果がでている。 【課題】 ・役割の分担や行事の精選を検討し、効率的かつ効果的な教育活動の実践 ・「平均超過勤務時間 月45時間以内実施 12か月	・平均超過勤務時間 月45時間以内実施 12か月	・勤務時間の客観的把握(「きんむくん」の活用)の取組⇒○ ・部活動複数観閲制の取組⇒△ ・平均超過勤務時間 100時間以上職員への声かけ改善相談⇒△	・平均超過勤務時間 月45時間以内実施 7か月(1月まで(10か月))	【課題】 ・学校全体として平均超過勤務時間月45時間以内はおおむね実施することができているが、月100時間近く勤務している教職員がいるなど偏りが生じている。 【取組の方向性】 ・校務分掌の分散化・日課表の見直し・短時間での打合せ等の情報共有の場の設定 ・部活動における適切な休養日及び活動時間の基準明示、外部人材の導入 ・学校行事等の精選、見直し ・年休、振替等の取得しやすい雰囲気づくり
	保健管理 安全管理	【現状】 ・新型コロナウイルス感染症対策に取り組みながら各種検診検査、学校環境・安全の確保に努めている。 ・感染症を持ち込まないための体調管理や欠席、問合せ・相談の連絡など対応に追われてしまう現状がある。 ・新型コロナウイルス感染症拡大流行前に比べて不登校生徒が多く、今後も増える傾向にある。 【課題】 ・感染症予防対策の継続(日常の体調管理、換気・消毒など)、体調管理の効率化。 ・心に問題を抱える生徒の早期発見・対応。学校環境の改善・向上。 ・避難訓練の計画的実施。	・感染予防対策(体調管理チェック・施設設備の消毒・三密回避など)を継続し、安全な学校環境の保持に努める。 ・各種定期健康診断や日常の健康観察や健康相談により、心身の健康問題を有する生徒の早期発見と事後指導による改善に努める。 ・学校環境衛生の検査や管理を適切に行い、維持改善を図る。 ・避難訓練の実施 2回 ・安全点検の実施	・グーグルフォームを活用しての体調管理⇒○ ・各種検診検査の実施⇒○ ・学校衛生検査の実施⇒○ ・5月校内訓練実施、10月も感染症対策下の為校内訓練を実施⇒○ ・安全点検6月実施⇒○	・モバイルによる入力にし、電話での対応が減り、毎日ほぼ100%の入力により体調及び欠席・遅刻などの確認・把握ができるようになった。 ・やはりコロナの影響がカウンセラーの加配にもかかわらず希望者多数のためカウンセリングの機会そのものは増やせていない。 ・2回実施、全項目基準を満たしている。 ・5月は新入生を含め避難経路の確認ができた。2回目は詳細な時間を周知せず実施、例年より緊張感を持たせた訓練ができた。 ・修繕箇所を把握し修繕が図れた。	【課題】【取組の方向性】 ・体調管理表の継続により感染症を持ち込まない意識の徹底を継続する。 ・心の問題を抱える生徒が増える傾向であり、特に女子生徒にその傾向が強い。今まで以上に早期発見に努める必要があり、クラス・学年・学習(教科)指導をはじめ多くの職員がアンテナを高く張り、共有し情報交換する機会を増やす必要がある。 ・第三者(消防、地域住民)も立会のもと、より実践的に緊張感を高めた訓練を検討・計画する。 ・環境衛生と合わせて安全確保のための点検を行い、環境整備に努める。
	研修 (資質向上の取組)	【現状】 ・ICTを活用した授業実践において、教科や教職員間で差が生じないよう、必要に応じて研修を実施している。 ・コンプライアンス研修を定期的に実施し、教職員の資質の確保・向上に努めている。 【課題】 ・ICT活用の充実にに向けた研修の実施 ・コンプライアンスに関する研修の定期的実施	・授業アンケート項目「先生は、ICT機器の活用や資料、掲示物など教え方を工夫している」の肯定的回答者90%以上 ・教職員による信用失墜行為件数 0件	・ICT機器の活用に関する研修の実施⇒○ ・ICTを活用した授業実践事例に関する研修の実施⇒△ ・コンプライアンス研修の実施⇒○ ・教育関係法規・資料等の理解⇒○	・授業アンケート項目「先生は、ICT機器の活用や資料、掲示物など教え方を工夫している」の肯定的回答者85.0% ・教職員による信用失墜行為件数 0件	【課題】 ・ICT機器の活用方法に関しては今後も研修を実施し、授業実践事例等を教職員間でさらに共有していく必要がある。 ・教育関係法規や教育時事・答申に関する情報の提供や共有の継続が必要である。 【取組の方向性】 ・ICTを活用した授業実践事例の収集と研修の充実 ・コンプライアンス研修の定期的な実施と教職員間での情報共有
3	情報提供 (広報、生徒募集)	【現状】 ・令和2年度はコロナ禍のため計画通りに実施できなかった。令和3年度についてもコロナ禍の状況を踏まえつつ、実施する方向で計画する。 【課題】 ・コロナ禍のため計画通りに実施できるかが課題である。	・戦略的な広報活動の実施 学校説明会(オープンスクール)の参加者は小学5、6年生500組以上(募集定員の2倍以上) 学校公開・オープнтаイムの参加者は小学5、6年生500組以上(募集定員の2倍以上) ・志願倍率2倍以上	・学校説明会、学校公開、オープнтаイム(自由見学)を年各1回実施及び文化祭の公開⇒△ ・県西地区小学校訪問年2回(管理職)⇒×	・参加人数を制限したものの、学校説明会は約450組、学校公開・オープнтаイムには約470組が参加した。文化祭の一般公開は中止した。 ・県西地区小学校訪問はコロナ禍のため実施を見送った。 ・学校情報の公開については、ほぼ100%達成。 ・県西地区教育委員会訪問年2回(管理職)⇒○ ・県西地区小学校訪問は100%(年2回実施)達成。 ・県西地区小学校訪問はコロナ禍のため実施を見送った。	【課題】 下妻一高、海海道一高附属中の開校により、本校の志願倍率低下が予想されたが、様々な広報活動の取組の成果もあり、2倍台を維持した。しかし、古河市が伸びている一方で、他の市町については全て減少傾向にあるため、より一層戦略的かつ効果的な広報活動が必要である。 【取組の方向性】 広報活動の対象者や活動内容、日程等を再度見直し、より一層戦略的、効果的な活動となるよう練り直す。